



# しらかべ

2017年3月17日 人権・同和教育部発行

春暖の候、保護者の皆さま方におかれましてはご健勝のことと存じます。今年度も本校の人権・同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。そして、「しらかべ」をお読みいただいた感想や本校の人権・同和教育の取り組みについてのご意見などについて、懇談などで返信いただき、ありがとうございました。来年度も変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## ✚ 震災の記憶～本校生の読書感想文より～

4月に熊本県で大震災が発生しました。残る一人の行方不明者を一生懸命捜索する自衛隊や消防士の様子をニュースで見ている、「生きているこの人には会えんかもしれんな」とつぶやいた娘に、救急救命士である父親は「確かにそうかもしれん。でも待っている家族には大切な命やけん」と。この言葉に命の大切さを教えられた生徒は、その後、東日本大震災のルポルタージュである「遺体 震災、津波の果てに」という本を読みました。8月にこの行方不明者の遺体が見つかったニュースで、その方の父親の周りの人への感謝の言葉とやっと連れて帰ることができるという言葉聞いて、父の“待っている家族には大切な命”という言葉の通りだと思ったそうです。その生徒の感想の一部を以下に、紹介します。

津波で亡くなった人たちの遺体安置所での遺体の様子など、このまま読み進めるのが怖かった。その中で、寒くならないようにと遺体を毛布に包んであげる姿や「自分が頑張らなくてはならないんだ」と必死に自分を奮い立たせている歯科医師の様子などを読むうちに読まなければならないという気持ちになった。

あとがきに3年後の釜石の姿が書かれている。未だに遺骨が発見されず、骨壺に遺族が遺品を入れているだけのもの、名前のない骨壺。今でもお寺には市内外の方がお参りに来ているようだ。月日が経っても、震災のことを覚えていてそうしてくれる方がいるのは素晴らしいことだと思う。本の中でも「遺体は誰かに忘れられてしまうことが一番つらい。だからこそ、生きている者は彼らを一人にさせてはいけない」という言葉があった。命の一つひとつがそれぞれの家族にとっても大切な命であり、その命を大切に思っているということ。命は地球より重いという言葉が今、はっきりと私の心の中にも重さのある、意味のある言葉になった。私も、まわりの大切に思ってくれる人たちのために自分の命を大切に、まわりの人たちの命も大切に思っていきたい。そして、震災の記憶。これをきちんと次の人たちに伝えていく。そうしてこの震災で亡くなった人たちの命を大切にしたいと強く思う。

## ✚ 「部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）」について

2016年12月16日、「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。同和問題は、日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた日本固有の重大な人権問題です。坂出高校では、これまで継続して同和問題をはじめとするさまざまな人権課題に対する学習を行っています。これからも、豊かな人権感覚と人権に対する正しい理解・認識及び人権を尊重する意欲・態度を身につけた生徒を育てていきたいと考えていますので、今後とも、人権・同和教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

## 【2年生3学期の取り組み ～高松差別裁判事件・人権クロスロード～】

2年生は3学期、二本柱で学習を進めました。1月11日には、1933年に起こった高松差別裁判事件から、結婚差別について学びました。憲法14条の制定など、大きく社会に及ぼした影響や歴史を知るという意味について学びました。また、1月18日には、各クラスで人権クロスロードを実施しました。クロスロードとは、「岐路・分かれ道」を意味します。私たちの日常では、ジレンマを伴う決断を迫られる場面が多々あります。そのようなさまざまな状況を想定し、YES・NOの二択で自分の行動を決定し、その理由を示す、カードゲームの一種です。クロスロードで生徒が取り組んだ問題を紹介します。

- ☆あなたは小学校3年生です。クラスにいじめられている子どもがいます。ある日、その子と一緒に帰ろうと誘われますが、いじているグループ10人が自分を見ています。
- あなたは一緒に 帰る or 帰らない
- ☆あなたは不動産会社の社員です。お客様から「同和地区以外の物件を教えてください」と依頼されました。
- あなたは同和地区以外の物件を 教える or 教えない

生徒の間では活発に意見の交換がされていました。級友との話し合いを通じて得るものは多かったようです。以下に生徒が書いた感想（一部抜粋）を紹介したいと思います。

- ▶少数意見を尊重することの大切さを学びました。少数派の意見を聞くことで、新たな側面からの考え方や、多数派の矛盾が見えてきました。僕や周りの人もそうだと思いますが、やはり安心を求めて多数派を選ぶことが多々あります。流されずに自分の意見をしっかりと持って主張することが必要だと感じました。
- ▶多数派／少数派だから、どちらが正しい、ではなく、自分の意志を固めて人に示すことが大事だということです。最も大切だと考えたのは、色んな意見に寄り添って納得したり、理解を深めたりすること。今までは、人々の体験を基に感じたことだけだったけれど、今回は自分で感じられたことなので、これからも心に残るだろうと感じました。
- ▶頭で差別はだめだと分かっているけど、気持ちの部分で差別しているのだと感じた。今まで勉強してきたことは他人事と考えてしまい、いざ自分に置き換えてみると自分も差別する側の人間になるかもしれない。お客さんが差別をしているだけで、自分がしているわけではないからいいと思っていた。しかし、「子どもが部落差別のことを勉強しているのに、大人が差別しているのはだめだ」という友だちの意見に考えさせられた。
- ▶最後の不動産屋の問では、一人の社会人として、会社員として、差別をする気などなく答えを出したつもりだったが、自分の心の中に隠れた差別が残っていると知り、悲しくなると同時に恥ずかしくなった。今まで、部落出身者の不当な逮捕や結婚差別の話聞いて、差別する人への怒りや情けなさを感じ、考えさせられてきた。自分はしっかりと人権学習ができていて、差別のない人間だと思っていたが、未だに人権について理解しきれない自分を発見して、良い機会になった。さらに深い理解をしていきたい。



「知識」として学んできた人権を「自分自身の問題」として積極的に考えることができ、また自分とは異なる意見・価値観の存在への気付きもあったようです。

3年生では、就職・結婚差別の事例から、差別解消に向けての考え方や生き方を見つめます。